

## 行為(1) 失行

### 7-1. 症状 (臨床神経心理学・高次脳機能障害学)

#### 7-1-1. 到達動作 reaching 「手を伸ばす」と把握動作 grasping 「つかむ」

##### a. 視覚性運動失調 optic ataxia

ataxie optique (周辺視野) / Optische Ataxie (中心視野)

##### b. 拇指探し試験 (=体性感覚的に)

#### 7-1-2. 失行 apraxia

##### a. 古典的分類 (観念性失行 ideational ・ 観念運動性失行 ideomotor ・

肢節運動失行 limb-kinetic = 拙劣症) →研究者によって定義バラバラ

##### b. 「使用失行」「模倣失行」「パントマイム失行」「概念性失行」「触知失行」...

##### c. 口舌顔面失行 buccal-lingual-facial

##### d. 構成障害 constructional ・ 着衣障害 dressing

→空間的要素強い; 最近は「失行」とせず「障害」という。

##### e. 肢位構成失行 postural apraxia

##### f. 文字を書くことの障害 = 失書 agraphia (→「言語」)

#### 7-1-3. 運動そのものの量的障害

##### a. 運動開始困難 motor initiation difficulty 歩行失行, 開眼失行・閉眼失行

##### b. 運動維持困難 motor impersistence

#### 7-1-4. 意欲低下, 自発性低下, 発動性低下, 無気力 → 無為 abulia

### 7-2. どのように調べるか (神経心理学的検査)

#### 7-2-1. (失行) 入力と出力の様式を組み合わせる

##### a. 入力 (言語命令, 視覚提示, パントマイム/ジェスチャー, 触覚など)

##### b. 出力 (動作, 言語的説明, 選択など)

#### 7-2-2. (上肢の失行) 右手と左手 → 左側の失行・右手の構成障害

#### 7-2-3. (上肢の失行) 条件間のパフォーマンス比較 (量的比較) と誤反応分析 (質的比較)

#### 7-2-4. 標準高次動作性検査

#### 7-2-5. 「理解」を検査することの必要性

#### 7-2-6. (構成障害) 模写・模造, 言語命令による描画など

### 7-3. メカニズムの仮説 (認知神経心理学)

- 7-3-1. (失行) Liepmann 「観念企図」→「肢節運動エングラム」二本立て
- 7-3-2. (失行) Geschwind 「言語-運動離断」それだけで
- 7-3-3. (失行) Heilman グループ  
... 網羅的に説明しようとするこのように複雑になるのは当然
- 7-3-4. (構成障害) 右半球損傷と左半球損傷

### 7-4. 脳の構造と機能 (認知神経科学)

- 7-4-1. (失行) 頭頂葉→前頭葉
- 8-2-2. (前頭葉性行為障害) 前頭葉内側面, 前部帯状回 anterior cingulate,  
脳梁 corpus callosum

#### 参考図書

- 河村満, 山鳥重, 田邊敬貴: 失行. 医学書院, 2008.
- 丹治順: 脳と運動—アクションを実行させる脳 (第2版). 共立出版, 2009.